



平成28年9月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

県民の日 特別企画開催



解説：県民の日：1876年8月21日、静岡県が誕生。静岡県を身近に感じる機会になればと毎年この日を県民の日とし、各地で様々なイベントが開催されている。

8月8～10日、会場において、「県民の日特別企画 展示室夜間開放・磯生物ふれあい体験」と題し、夏休み中の子供たちや観光客の方々を対象とした夜間イベントを開催しました。少しずつ内容を変えながら毎年実施しているイベントで、今年は例年の展示室の観覧、タッチプールに加え、“カニ引き”体験を実施しました。一番人気はタッチプールで、大人も子供も、ハコフグやナマコ、イセエビなど色々な生き物とのふれあいを楽しんでいただけました。当場は来年度より建て替え工事を行うため、現施設でのイベントは今年で最後となりますが、200人以上の方に御来場いただき、最後を飾るにふさわしい賑わいになったのではと思います。

中・高校生の職場体験受入

7月5～6日に河津中学校2年生徒を「職場体験学習」として、8月8日に下田高等学校1年生徒を「インターンシップ」として当場に受け入れました。2人ともはじめは緊張している様子でしたが、キンメダイの測定補助や展示水槽の設置など研究所の仕事を熱心に体験していました。今回の職場体験を通じ伊豆地域の産業と職業に理解を深め、将来の職業選択に役立てていただけたらと思います。当場は、これからも中高生の職場体験を積極的



キンメダイの測定補助をする中学生

に受入れ、生徒の就業意識向上に貢献していきます。

伊豆半島東岸定置網の漁海況予測

7～8月にかけて、国および各県の担当者によるわが国周辺の水産資源の評価および今後の漁海況を検討する会議が開催されました。当場では、会議での協議結果と相模湾の漁海況等をもとに、伊豆半島東岸定置網における平成28年7～12月の漁海況を下表のとおり予測しました。

伊豆半島東岸定置網における平成28年7～12月の漁海況予測

魚種	予測
海況	黒潮は9月上旬まで小規模なB・C型で推移し、中旬以降、N型基調で推移。沿岸水温は、平年より「やや低め」で経過する。
マアジ	依然低調に推移しており、漁獲量は前年を下回る。0歳魚主体。
マサバ	全国的に資源量は増加傾向にあるが、伊豆半島東岸では低水準で、ゴマサバに混じる程度。
ゴマサバ	漁獲量は前年並～上回る。
マイワシ	漁獲量は前年を上回る。体長10-16cmの0歳魚主体。
カタクチワシ	漁獲量は前年並み。体長9cm未満の未成魚主体。
ブリ	漁獲量は前年並み。いなだ・わかし銘柄主体。

9月の予定 ●2日に伊東市で関東東海ブロック漁業士研修会が開かれます。●宇佐美海岸の貝類生息状況を調査します。●16日からイセエビ刺し網の操業が始まり、漁獲物調査を行います。●西伊豆地区で実施中の水産物の価値を磨く事業の作戦会議（対象：ヒジキ・加工品）が14日に行われます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835
アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>
当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。